



教育後援会報

京都府立農芸高等学校

第37号

令和2年2月

発行 京都府立農芸高等学校 教育後援会 編集 同事務局

自分を変える学校 未来を見つける学校



教育後援会長
川邊 哲

冬の寒さも和らぎ、春の訪れが間近に感じられる季節となりましたが、教育後援会員の皆様にはご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

私、昨年四月から藤田洋嗣前会長の後、重責を引き受けることとなりました。力不足ではありますが、農芸高校の教育環境充実と生徒の皆さんの様々な活動支援のために、一生懸命に務めさせていただきますので、会員皆様の一層のご協力を心からお願いたします。

さて、私が教職員として、また保護者、後援会員として農芸高校に二十数年間関わってきた中で、「生徒が変われる学校」、「やろうと努力すればできる学校」、「自分の未来を見つけ出せる学校」であるということ強く感じてきました。

卒業生の皆さんや、今在学されている生徒並びに保護者の皆さんも、「農芸高校で自分自身が変われた。農芸高校で我が子が変わってきた。」と感じておられる方は少なくないはずです。私自身も、三人の息子それぞれの在学時に、様々な行事や活動を通して変わって

く姿と、自分自身の将来に向けて自ら舵を切っていく姿を感じることができました。

今、多くの学校で、新学習指導要領において示された「主体的・対話的な深い学び」に向けた取組が試行・研究され、「生きる力」、「学びを社会に生かせる能力」を育成する努力がなされています。「生徒が自ら課題を設定し、その解決に向けて取り組む」ことや「協力しながら自ら学び合う」ことなど、今、新しい手法と言われていることは、農芸高校では十数年前から取り組まれてきたことであり、それは農芸高校の素晴らしい特色として多くの成果を上げ実践されてきたことです。

校門横に掲げられた看板の文字、「目指せ、Next Stage!! あなたの夢へのプロローグ、この学び舎から」とあるのは、農芸高校の教育をうまく言い得た表現で、生徒たちの未来へ向かう姿勢を応援する言葉であると思います。在校生並びにこれから入学してくる生徒の皆さんそれぞれの未来に向けた挑戦が、満足なものになるよう頑張ってくださいと願っています。

農芸高校教育後援会は、生徒の皆さんが在学中に様々な教育活動に参加する際に必要な支援をする組織で、学校行事、農業クラブ、部活動などを支援しています。活動が活発になることは大変喜ばしいことですが、資金調達は年々難しくなっており、卒業生の保護者の皆様には、会の主旨及び活動にご理解いた

だき、引き続き一層のご支援をお願いいたします。また、在校生の保護者の皆様には、他校にはない本会の支援制度を活用いただき、お子様の高校生活が一層充実したものであるよう励ましをお願いします。結びにあたり、卒業生の皆さんの前途を祝すとともに、合わせて卒業生並びに在校生の皆さんの益々の活躍を期待しています。



会費及び寄附金についてのお願い

本会は、在校生・在職教職員の会費と、卒業生・卒業生保護者の会費、一般会員の寄附金（1口1,000円）で運営されています。出費多端の折、誠に恐縮に存じますが、御理解の上、御支援、御協力いただきますようお願い申し上げます。

■一般会員寄附金 1口 1,000円 ■在校生・在職教職員会費 年 500円

■卒業生・卒業生保護者会費 5,000円・3,000円（卒業時に納入）

※ 京都府立農芸高等学校教育後援会振替口座番号（京都 01080-1-9234）

なお本会への寄附とは別に、下記のような農芸高校に対する寄附事業が始まっております。

「京都府母校応援ふるさと事業」；「ふるさと納税制度」を活用した事業で、各校が支援を必要とする事業を掲げ、寄附を募っています。寄附額に応じて所得税・住民税が控除されます。

教育後援会長退任のご挨拶



藤田 洋嗣

私、平成31年4月の総会で会長を退任いたしました。8年間大過なく過ごさせていただいたのは、ひとえに後援会のみなさまのご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。今後とも微力ながら後援会発展のために協力していくことをお誓い申し上げます。

さて、せっかくなので機会ですし、東京大学農学部での2回の公開セミナーについて報告させていただきます。

1回目は6月29日、「100年後の地球に何が出来るか」のテーマでした。『私たちの生活は豊かになる一方で、環境汚染や温暖化をはじめ多くの問題に直面しており、人類が生き残れる地球を持続できるかどうか、いわば「崖っぷち」に立っている」と言っても過言ではありません。今後100年後に地球の温度は10度以上上昇すると考えられます。また、昭和46年頃、人は地球のエネルギー1個分使っています。地球のエネルギーを消費しています。そんな中、私たちにできることは、化石エネルギーを節約する問題を解決していく科学者集団「地球医」を育成し、これらの人材が活躍する場を社会に作り、人類を含めた全生物が共存共生する100年後の地球を目指す必要があります。』という内容でした。2回目は10月19日、「農学部シアター・ICTで自然を見る、感じる、研究する」のテーマでした。『今後の山林管理の仕方について、ドローンを飛ばしそのデータをパソコンに取り込んで山林を管理していくことも1つの方法である。』という内容でした(この内容の詳細については東京大学農学部公開セミナー56・57回のホームページをご覧ください)。

令和2年度からの学科改編について

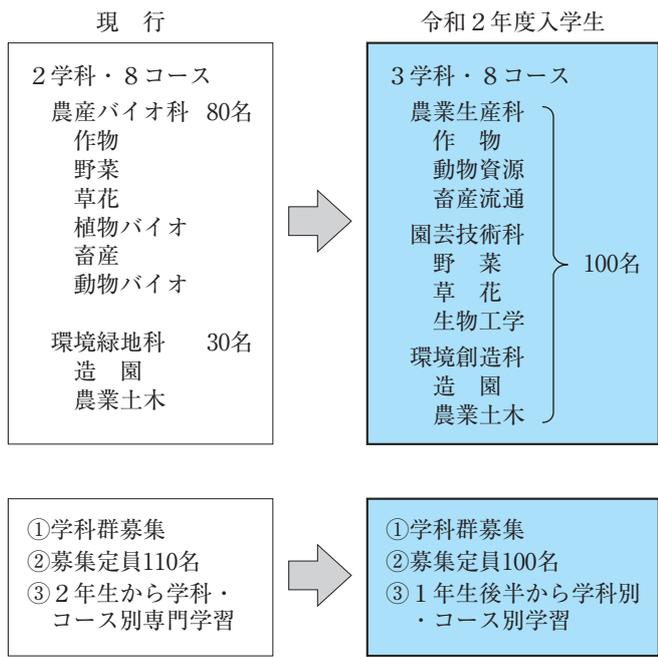


校長 長谷川 清隆

教育後援会の会員の皆様には、ますます御健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。日頃は、本校教育の推進に温かい御支援を賜り、心から御礼申し上げます。

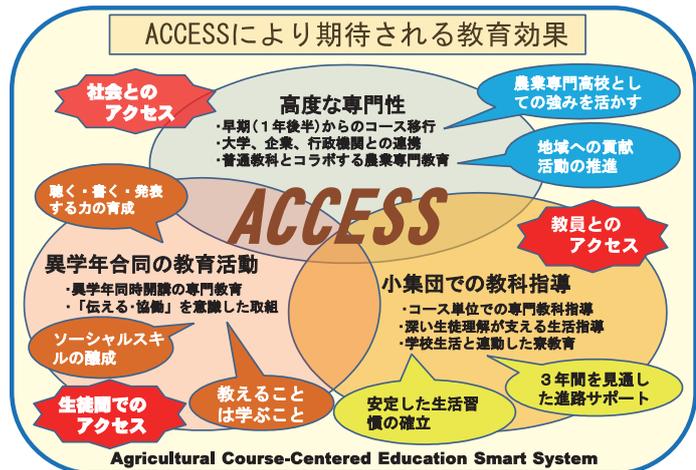
今年度、本校は学びのテーマを「継続と達成 目指せ Next Stage!!」とし、生徒、教職員そして学校としても取組みを継続し、目標が達成できる一年となるべく教育活動に取り組みを進めました。その結果、3年生の希望進路実現に加え、農業専門高校として、実に多くの成果が見受けられました。詳しくは本会報の紙面に委ねさせていただきます。

さて、本校は昭和58年4月の開校以来、今年で38年目をむかえることになり、この間、各学科・コースの特色を活かした農業専門教育と全国農業経営者育



成寮に属する船南寮での寮教育を軸に、京都府唯一の農業専門高校として歩みを進めてきました。現在の農産バイオ科・環境緑地科は平成6年度から、そして学科群募集は平成24年度からスタートした体制であります。これまでの実績を継承し、令和4年度から年次進行で代わる新しい高等学校学習指導要領の趣旨と農業の6次産業化を踏まえ、新しい時代に対応した教育の推進と専門教育の一層の充実を図ることをねらいに、来年度入学生から学科を左図のように改編いたします。

すなわち、1年生後半から学科・コースの専門学習がスタートし、将来の農業関連分野のスペシャリスト育成を目指す各コース縦割りを軸とする農業教育を推進することになります。この学びをACCESS (アクセス) (Agricultural Course-Centered Educational Smart System) と呼んでおります。このACCESSにより期待される教育効果は左図の内容を考えております。



今後とも教育後援会の会員の皆様には、御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第37回農芸祭報告

「輝く農力 令和の可農性 目指せ Next Stage!」のスローガンのもと、第37回農芸祭を11月23日(土・祝)に実施しました。天候にも恵まれ、2000名を超える来場者を迎えたのですが、今年は特に、本校を巣立っていった卒業生が、多数来校してくれたことが印象に残っています。農芸祭の運営においては、本校生徒・教職員だけではなく、PTA、船南同窓会、そして教育後援会の皆様のお力添えで、大成功のもと終えることができ、ありがとうございます。

今年の農芸祭では、来年度の学科改編を見据え、6次産業化を実践する取り組みが、数多く見られました。畜産コースでは、農芸高校産牛乳を須知高校食品科学科で加工してもらったヨーグルトの販売、野菜コースではトマトを使ったホットドッグ・カレーライス、そしてメロンジェラートの販売、作物コースでは農芸高校産大豆100%の豆腐販売を行いました。自分たちが生産したものが、連携先の協力のもと、付加価値の高い加工品となり、それらを販売することで、日頃の授業では経験できない貴重な体験を積むことができました。さらに、教育後援会では、昨年同様、焼きそばといたけ原木販売で、農芸祭を盛り上げていただきました。

また、農芸祭1週間前に行った農芸感謝祭も3年目を迎え、今年のメニューは、カレーライス、豚汁、ジャガバター、野菜炒めで、日頃の学習の成果に感謝し、農芸祭に向けての英気を養いました。

農芸祭は、これまでの伝統に加え、新たな取り組みにも挑戦し、年々内容が充実しています。教育後援会の皆様には、今後とも農芸祭への厚いご援助をお願いし、第37回農芸祭の報告とさせていただきます。

(農場部長 岸根 一宏)



技能五輪全国大会

今年度もプロの青年造園家と競い造園技能の日本一を目指し、第57回技能五輪全国大会に環境緑地科3年大西陽生郎君が出場しました。

今大会は11月15日～18日に愛知県で行われ、40職種1000人以上が参加しました。

技能五輪の活動は専門部である造園部で取り組んでおり、今大会で16年連続の出場となりました。前回大会においては敢闘賞を受賞し、今大会は高校生初の金賞を目指して取り組みました。

競技内容には、石積み、小舗石敷き、石貼り、木工、植栽などの要素があり、寸法の正確さと仕上がりの美しさが求められます。すべての要素をやり遂げ、延べ10時間を二日間で完成させる課題となります。

競技課題の発表は8月中旬にあり、それから図面の解説し問題点を見つけ、施工方法を考え練習をしました。出場が決定した6月から大会直前まで、放課後、休日を利用して、課題を想定しながら練習に取り組ましました。

今大会で大西君は3年連続の出場となり充実した練習を熟し、本番へ臨むことができました。

大会は両日ともに快晴の中行われました。一日目の午前中は、石積みにも苦戦しましたが、午後に盛り返し、規定の作業までクリアすることが出来ました。

二日目の残り4時間、練習通りのスピードで作業を行うことができ、標準時間終了2分前に全行程を完了することができました。

金賞を目指して、丁寧に正確な作業を心がけて競技を行いました。結果、目標には少し届かず銅賞の受賞となりました。

本人は悔しそうな表情でしたが、これまで3年間の取り組み姿勢、今大会の作品を見て金と同じ価値のある銅賞だと思っています。

大会後から次回大会に向けて大西君から後輩へ技術と気持ちの伝授が行われています。次回大会は更に良い色のメダルを目指し取り組んで行きたいと思っています。

(環境緑地科 矢野 正貴)



部活動 および

農業クラブ 専門委員会

パワーリフティング部 世界大会報告

昨年6月、スウェーデン・ヘルシンボリで開催されました「2019年世界クラシックパワーリフティング選手権大会」に、3年1組金子万生君と、3年3組野村翔馬君が日本代表選手として出場しました。

二人は、昨年2月に茨城県で開催された「第23回ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会」に出場し、金子君はサブジュニア男子105kg級で優勝、野村君はサブジュニア男子66kg級で第2位となり、世界大会への切符を獲得しました。

世界大会では野村君は総合8位、金子君は総合5位、種目別デッドリフトで第3位を獲得し、またデッドリフトの日本記録更新を果たしました。

兩名とも出発前からいろいろな人と英語で交流することを楽しみにし、大会期間中は各国の選手との会話や買い物などを楽しんでいました。

パワーリフティング部員が毎年このような機会を得ることができるのは、教育後援会並びにPTA、学校関係者の皆様方から多大な御支援、御声援をいただいたおかげです。誠にありがとうございます。

今年もパワーリフティング部は「心優しき力持ち」と校訓である「質実剛健」を掲げ、周囲への



2019年世界クラシックパワーリフティング選手権大会への御支援、ありがとうございました。次のとおり会計報告いたします。

(単位：円)

収入の部	
項目	金額
前回からの繰越金	143,744
支 援 金	332,650
合 計	476,394

(単位：円)

支出の部	
項目	金額
支 援 金	230,000
郵 送 料	18,942
金 封 袋	1,296
合 計	250,238

476,394円 - 250,238円 = 226,156円は今回の世界大会出場時の支援金とさせていただきます。

感謝の気持ちを持って、常に謙虚に目標に向かって努力し続けます。今後とも御指導、御支援のほどよろしくお願いたします。



硬式野球部

本校野球部は他校との連合チームを形成し大会に出場しています。当然ながら連合である以上、校風・ユニホーム・球歴など、すべてが異なる生徒同士が集い、チームを作ることから始まります。本校の部員8名は、そ

した環境の中で積極的にコミュニケーションをとり、チーム内での信頼を獲得していきました。公式戦で勝利を重ねることに、いつしかベンチ内では当たり前のように学校の枠を越えて仲間を励まし合う声飛び交っています。そんな光景に、子どもたちの「強さ」を感じました。

さて、私たち農芸高校硬式野球部は日々の活動で、

① 生徒・顧問が共通目標を持ち、それに集中できる環境をいかに整えるか。

② 「行動を起こす責任(生徒)」と「結果に対する責任(顧問)」を共有できているか。という2点を意識して(させて)取り組んでいます。来年度は、また違った野球部をお見せできると、選手・顧問一同確信しています。今後も、硬式野球部への御理解・御協力をよろしくお願い申し上げます。

陸上競技部

陸上競技部は、2年生3名、1年生2名の5名で活動を行いました。

参加した大会は、4月京都府春季大会、5月京都I・H市内ブロック予選会、京都府総合体育大会(市内ブロック)、7月京都府記録会、8月京都府ユース選手権大会、10月京都府ジュニア選手権大会、11月京都府国立公立大会でした。今年度はユニフォームも一新し、10月のジュニア選手権大会では、男子800mで6位に入賞することができました。

試合に出場し、高いレベルで競技を行いたい者、こつこつと練習し、自分の実力を試合で試したい者、試合には出場せず、体力の維持や向上を目指す者、それぞれの目標に合わせて、部員一人ひとりがメニューを工夫し、日々の練習に取り組んでいます。少人数で派手さはありませんが、今後とも御支援のほどよろしくお願いたします。

バドミントン部

今年度、3年生3名、2年生2名、1年生4名の計9名で活動してきました。バドミントンに対する熱意がある1年生が入部したこともあり、活気のある部活動となっていま

す。日々の練習では2年生が部活動を引っ張ってくれ、しっかり活動しており、技術の向上に努めています。大きな大会では思うような結果を残せていませんが、来年度はさらなる飛躍につながるように、部員が日々、技を競いながら活動しています。

硬式テニス部

硬式テニス部は、現在2年生3名、1年生1名の計4名で活動しています。人数こそ少ないですが、高い目標を持ち、京都市内の強豪校と互角に渡り合えるよう日々精進しています。

京都府のテニスのレベルは高く、ブロック決勝・決勝トーナメントまで進むことは容易ではありません。しかし、「努力は絶対に裏切らない」をモットーに、

暗くなるまで練習を積み重ねてきました。特に夏の合宿(3泊4日)では自分達の限界に挑戦すべく、文字通り朝から晩までボールを追いかけ続け、大きく成長できたと思います。プレーだけでなく、人間性も磨けるようこれからも皆で精進していきたいと思えます。

今後とも温かいご支援をいただきますよう、よろしくお願いたします。



合宿(丹波自然公園)での1コマ



YONEXのコーチによる練習会参加(上段左2番目より3名が農芸)

サッカー部

「公式戦1勝」。サッカー部は、今年の4月、インターハイ予選の初戦を6-1で勝利することができました。勝利を導いてくれた生徒たちには、感謝の気持ちで一杯です。

現在は3年生が引退し、部員は8名(うちマネージャー1名)となりました。人数不足のため、1月の新人戦では合同チームでの出場となりましたが、選手たちは、今まで以上にトレーニングに励んでいます。4月に新入生を迎え、再び農芸高校単独チームとして公

式戦に出場し、大きな花を咲かせてほしいと期待してやみません。
サッカー部は、6月から9月に実施されるU-18リーグなど、多くの試合に参加していますが、これも教育後援会の皆さまを始め多くの方々の支援により参加することができています。今後も一所懸命、生徒たちを指導して参りますので、選手共々、温かいご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



卓球部

今年度の卓球部は2年生が2名所属しています。2名とも未経験者なので、基礎技術の習得を目指し、「1セット、1点でも多く取る」という気持ちで練習に打ち込んでいます。活動日は、月曜日から木曜日までです。部活動だけでなく学習活動にも積極的に参加し、学業との両立を目指しています。今後も応援よろしくお願ひします。

男子バスケットボール部

今年度は、3年生4名、2年生4名、1年生3名、マネージャー1名の合計12名で活動がスタートしましたが、3年生の引退などで現在は1名で活動しています。引退を迎えた3年生は、最後まで後輩のために練習に協力してくれたり、アドバイスや励ましの言葉をかけてくれるなどチームに大事なものを残してくれました。それに応えようと、弱音を吐くことなく毎日黙々と基礎練習や体力向上に向けたトレーニングを積んでいます。10月には他校と合同チームを組み試合などにも参加することができました。来年度は新入生を勧誘し単独チームで公式戦に参加できるように努めて参ります。今後とも御支援の程宜しくお願ひ申し上げます。

剣道部

剣道部は、今年度7名で活動しました。公

式戦の参加と、初心者が多くいるので、昇段審査合格を目標に活動をしました。現在は二段1名、初段5名となりほぼ全員有段者となりました。
また、夏季休業中には、本校主催で第6回目を迎える合同合宿を実施いたしました。参加校数14校、総勢100名を超える参加者で、本校を含めた自校単独では合宿ができない学校の生徒たちは良い経験ができたと思います。

最後に、剣道部顧問の湯浅教諭が、高体連女子チームで京都府社会人剣道大会に出場し、負け知らずの活躍で団体3位入賞を果たす活躍をしました。
このように、生徒、教員も頑張っている剣道部を今後とも御支援をよろしくお願ひいたします。



パワーリフティング部

パワーリフティング部は現在1年生4名、2年生2名で活動しています。すでに引退試合を終えた3年生も練習に参加し、1、2年生をサポートしてくれています。
創部以来掲げるモットーは「心優しき力持ち」です。ただの力持ちではなく、人としての成長を目指します。応援してください。日々の活動に励んでいます。

茶道部

現在3年生8名、2年生2名の計10名で、裏千家・村上妙子先生の御指導のもと、毎週水曜日の放課後に活動しています。お茶の作法とおもてなしの心を学ぶため、集中して稽古に取り組みめるよう常に努力しています。日々の練習の成果として、今年度も農芸祭で呈茶をさせていただきました。今後とも温かい御支援をお願ひ申し上げます。



合唱部

3年生1人、1年生1人の小所帯ですが、毎週金曜日は亀岡高校合唱部と合同練習をしているため、多くの部員と活動を共にすることができています。今年度は七夕コンサートや敬老会、盆踊り会場などで歌声を披露する機会にも恵まれ、大勢の方に感謝の言葉をいただきました。現在は毎年恒例となった「亀岡高校・農芸高校 合同定期演奏会」に向けて練習に励んでいます。3月末にガレリア亀岡で行われる本番には、是非多くの方にお越しいただきたいと思っております。
今後ともご支援よろしくお願ひいたします。



植物バイオ部

2年生2名が所属し、無菌操作による植物の増殖や、野外の動植物の調査を行っています。本年度は南丹市からサクラの培養を依頼され、現在は成長点培養から得られたカルス再分化を進めています。今後は、苗を南丹市に提供することを目標として活動します。

畜産部

畜産部の共進会活動は、本年度で16年目をむかえました。4月に岡山県にて開催された第34回中国地区ブラック&ホワイトショウで2年ぶり8回目の最優秀高校賞を受賞しました。同月、静岡県で開催された2019セントラルジャパンホルスタインショウでは、ラピス号が、リザーブインターミディエイトチャンピオンのタイトルを獲得しています。また最優秀学校賞を3年ぶりに獲得し、さらに学生リードマンコンテストにおいては、2年生の宅間加鈴さんが入賞しました。今年度より畜産部員以外にも参加を募ったところ、16名と多くの生徒が参加し、京都農芸の生徒・牛のすばらしさを畜産業界に響かせたと感じております。
来年度宮崎県にて5年に1度開催される酪

農の祭典「全日本ホルスタイン共進会」が開催されます。京都府代表を勝ち取り、上位入賞と農業高校初の多回出品者表彰を目指します。畜産部は、皆さまからの多大なるご支援、ご指導のもと、現在に至っております。これからも更なる飛躍に向けて、生命を扱う部活として、365日の飼養管理や技術習得を目標に活動していきます。



藤田教育後援会名誉会長、2019セントラルジャパンホルスタインショウにて

造園部

造園部では、造園技能検定の取得を目標とし、校内に植えられた樹木の剪定作業や実習場の管理、施設の改修、補修、校内美化活動等を通じて日々、技術習得に取り組んでいます。本年度も校庭内樹木の剪定と旧玄関付近の再整備を中心に管理作業を行い、校内の環境整備に従事しました。校外では近隣寺院の庭園の管理を任せていただき、技術の向上とともに地域のボランティア活動にも携わっています。

昨年度は湯ノ花温泉にある旅館「京都・烟河」の玄関前のベジタブルガーデンを作庭し、本年度は引き続き「レストラン・テラス庭園」を完成させました。作庭した野菜の収穫スペース「ベジタブルガーデン」の管理作業も野菜部とのコラボレーション企画として実施し、野菜苗と草花の植え替え作業をおこないました。

農芸祭においては1年生、2年生部員を主体として、3坪庭園の設計、施工に携わり基本的な作庭技術や石割技術を上級生から下級生への技能継承として位置づけ、さらにはその一部分の張石体験を来場者に経験してもらう取り組みを行い、大盛況でした。

技能五輪全国大会においては京都府代表選手として造園部から連続で出場しました。目指すメダルを獲得するため、必死で練習してきた技術を全国大会というステージで発揮しました。自分自身と戦い、精神的な重圧に押しつぶされそうなる瞬間を乗り越えた結果、全国を舞台に「銅賞」を受賞することができました。ご声援ありがとうございました。

環境部

環境部では今年度も農業クラブ平板測量競技会に向けての活動、ブリッジコンテストへの橋梁模型出品、校内環境の整備、さらには専門的な資格取得に取り組みました。

7月20日に平板測量競技会の京都府大会が北桑田高校で実施されました。今年度は2チーム出場し、大会まで必死に練習・研究を重ねましたが、最優秀賞には届かず優秀賞に終わりました。競技会後はブリッジコンテストに向け、橋梁模型の製作に取り組みました。結果は振るわなかったですが、他校の作品や関連企業の技術を見ることができ、刺激を受けました。

資格取得については、3級鉄筋技能検定の合格を目指し、コツコツと練習に取り組みました。競技会やコンテスト、校内環境整備、資格取得の取り組みを通し、この1年で専門性を高めることができました。



野菜部

今年度1年生から3年生計10名の部員で、「おいしい野菜づくり」をテーマに活動してきました。中でも、バジル栽培は2年目となり、校内販売や里山の休日京都烟河においてバジルの苗販売を行い多くの方々に買っていただくことができました。今年も本校卒業生であり、亀岡市にある京懐石「雅」の西田浩二様の御協力のもと、バジルソースの製造を依頼し、校内や農芸祭などで販売することが出来ました。

部員も多くなってきた今、生産から加工・販売までの学習活動を活気あるものとし、楽しんで商品開発までを可能性があるアイデアを大切に考えていきたいと考えています。「農芸高校といったら〇〇！」をお土産にしよう！といってもらえるような商品をごんどん誕生させていきたいと思えます。今後、野菜部の御支援の程よろしく願います。

草花部

今年度の草花部は、多肉植物の栽培・普及活動に加え、「植物を楽しむ」ことをテーマに寄せ植えやガーデニングの要素を取り入れた活動を行ってきました。毎年実施してきた6月の寄せ植え講習会では鉢となる木枠の加工から取り組み、校内に自生する植物を活用した和風の寄せ植えや、多肉植物の生命力を活用したマグネットを作成しました。知識を考へることは、学びを深める機会として貴重な経験を積んでいます。少人数ながらも学年を超えて協力し合い、栽培から販売まで幅広い活動を行ってきました。今後は校内の環境整備に関わる活動も行っていく計画です。

授業では学びきれない様々な経験を通して専門分野の学びを深化させることを目的に活動しています。今後より一層、専門分野に特化した活動を続けていきたいと思えますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



情報処理部

今年度の情報処理部は、1年生7名の新入部員が加わり、3年生2名、2年生4名を合わせて13名となり活動してきました。2・3年生が新入生オリエンテーションで部の紹介をするともに、新入生を勧誘し、多くの1年生が入部してくれました。ワープロや表計算のスキルアップに仲良く取り組んでいます。また、農業情報処理競技会に出場し、他校の高校生が活躍する中で、ワープロや表計算の練習成果を試す良い機会となりました。

台湾農業研修を終えて

環境緑地科 嘉根 心平

平成25年から始まった本研修も今年度7回目となりました。今年度は北桑田高校から8名、須知高校から1名、農芸高校からは1・2年生で13名の計22名という昨年に引き続き大人数の参加で、生徒達の意識の高さが研修の前から感じてとれました。初めての海外に不安と期待で胸を膨らませながら研修に臨む生徒もいれば、2年続けて参加し、昨年交流した現地の生徒との交流や、より深い研修を求めて臨む生徒もいました。

さて、研修は現地への移動から始まります。初めての出入国に戸惑いながらも周りを見て行動することで無事現地に到着できました。現地での文化的学習はまず「食」となります。生徒にとつて口にすることが少ない台湾料理。食べ慣れない風味と食べきれない量の料理に驚きながらも、楽しく食事をすることができました。

次に毎年交流を行っている国立曾文高級農工職業学校との交流です。この高校は1800名の生徒が学ぶ大規模校です。バスを降りると全校生徒総出による花道で迎えられ、体育館での歓迎セレモニーでは体育科生徒による伝統舞踊や挨拶も生徒達はとても感動し、2回目の生徒も圧倒された様子でした。その後、曾文高校での体験授業です。現地の生徒に教わりながら様々な体験授業をしました。言葉が通じないながらも、本人達なりにジェスチャーや英語を使ってコミュニケーションをとっており、自分の思いが伝わった時には「とても感動した」と感想に書く生徒もいました。

その後の研修では、農業の試験場やトマト農家、日本人が作った烏山頭ダムで農業の研修を積みました。この研修では、現地の農家さんの話に耳を傾け、真剣にメモを取る様子や、台湾の農業に日本人が大きく貢献したことに感動する様子が見られました。加えて、現地の農産物を調査する青果市場での研修は、「見て」「嗅

いで」「触って」「食べて」「聞いて」五感を使って現地の農産物を学びました。農業以外の研修では、自分の担任の先生宛に、台湾からハガキを出すということをしました。切手を買ったり道を開いたりする場面でも、生徒に海外での積極性やコミュニケーション能力が身にきてきていることを実感できました。生徒にとつて最後の研修プログラムは、B&Sプログラムという現地の日本語を勉強している台湾大学の学生が生徒5人に1人ずつ付き添い、台北市内を共に約6時間散策するというものです。ホテルへもどつてきた時の生徒は全員達成感に満たされた顔をしており、また、写真を撮るなどして最後まで学生との別れを惜しんでいました。

研修を通して、生徒達からは「楽しかった!」「外国の人とコミュニケーションがとれて嬉しかった!」「めっちゃ勉強になる!」「来年も参加したい」という良い感想を聞くことができました。また、海外の文化や習慣を理解する柔軟な姿勢と、国や言葉の壁にとらわれず、自ら積極的に人と関わる力を身につけてくれたと実感します。

生徒達にとつてこの台湾研修の経験が自信となり、今後の学校生活や社会でも活躍していく人材となることを期待します。最後になりましたが、この海外研修にご支援をいただいた教育後援会をはじめ、ご尽力いただいた多くの先生方や関係者の方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。



教育後援会 事業及び会計報告

平成30年度 教育後援会 事業報告

月	日	事業名	内 容
4	10	第36回入学式 役員会	役員出席 総会に向けての協議
4	28	代議員会	事業・決算・予算の審議と承認
6	上旬	海外農業研修準備	広報・募集開始
6	16	第1回研修事業	草花寄せ植え講座／長谷川校長講話・意見交流
9	20	役員会 四者会議	農芸祭について 他 農芸祭について 他
10	中旬	生徒募集広報活動支援	広報用ポスター作成、府下中学校配布
11	9	海外農業研修説明会	台湾研修応募者説明会
11	23	第36回農芸祭	模擬店の開催、椎茸ほだ木販売
11	下旬	終身会費納入依頼	11・12月分で徴収
12	21~24	海外農業研修助成	京都府農業学科高校生海外農業研修（台湾）
3	1	第34回卒業式 選考会議 会報発行	役員出席 次年度役員案の作成・推挙について 第36号発行
3	26	第2回研修事業	椎茸ほだ木植菌 他

平成30年度 会計決算

収入総額 1,934,402円－支出総額 1,595,315円 ＝差引残額 339,087円（次年度へ繰越）

収入の部

単位（円）

科目	本年度予算額	決算額	比較増減	備 考
繰越金	697,947	697,947	0	前年度繰越額
会費	812,500	825,000	12,500	生徒通常 245名 122,500円 職員終身 8名 24,000円 職員通常 53名 26,500円 保護者終身 79名 237,000円 生徒終身 83名 415,000円
寄附金	150,000	82,050	-67,950	23件
事業収入	300,000	329,400	29,400	農芸祭売上 入学式・卒業式椎茸原木販売
雑収入	53	5	-48	貯金利息
合計	1,960,500	1,934,402	-26,098	

支出の部

単位（円）

科目	本年度予算額	決算額	比較増減	備 考
事務費	150,000	48,543	-101,457	封書・葉書郵送料
会議費	15,000	10,504	-4,496	会議用茶菓子・昼食等
渉外費	10,000	10,000	0	会長渉外費
旅費	10,000	10,000	0	役員旅費
事業費	800,000	792,960	-7,040	農芸祭・会報発行・研修事業
生徒福祉費	700,000	506,822	-193,178	生徒募集対策費
慶弔費	50,000	14,196	-35,804	香資料
振込手数料	7,000	2,290	-4,710	寄附金振込手数料
特別積立金	200,000	200,000	0	特別積立金
予備費	18,500	0	-18,500	
合計	1,960,500	1,595,315	-365,185	

平成30年度 特別積立金報告

単位（円）

科目	繰越額	本年度積立額	利息	積立金合計額	備 考
特別積立金	957,684	200,000	1,073	1,158,757	

平成31年度 教育後援会 事業計画

月	日	事業名	内 容
4	9	第37回入学式 役員会	役員出席・椎茸ほだ木販売 H30事業報告・決算、H31役員・事業計画・予算について
4	27	代議員会	H30事業報告・決算、H31役員・事業計画・予算の審議と承認について
6	上旬	海外農業研修準備	広報・募集開始
	22	生徒募集広報活動支援	広報用ポスター作成・府下中学校配布
9	27	第1回研修事業	草花寄せ植え講座／農芸高校の将来像について（長谷川校長）
9	27	役員会 四者会議	農芸祭について 他 農芸祭について 他
11	23	第37回農芸祭	模擬店の開催、椎茸ほだ木販売
11	下旬	終身会費納入依頼	11・12月分で徴収
12	23~26	海外農業研修助成	京都府農業学科高校生海外農業研修（台湾）
2	28	第35回卒業式 選考会議 会報発行	役員出席・椎茸ほだ木販売 次年度役員案の作成・推挙について 第37号発行
3	下旬	第2回研修事業	椎茸ほだ木植菌 他

平成31年度 会計予算

収入の部

単位（円）

科目	本年度予算額(a)	前年度予算額(b)	増減(a)-(b)	備 考
繰越金	339,087	697,947	-358,860	前年度繰越額
会費	836,000	812,500	23,500	生徒通常 233名 116,500円 職員終身 12名 36,000円 職員通常 53名 26,500円 保護者終身 89名 267,000円 生徒終身 78名 390,000円
寄附金	100,000	150,000	-50,000	
事業収入	300,000	300,000	0	農芸祭売上・椎茸ほだ木販売
雑収入	13	53	-40	
合計	1,575,100	1,960,500	-385,400	

支出の部

単位（円）

科目	本年度予算額(a)	前年度予算額(b)	増減(a)-(b)	備 考
事務費	50,000	150,000	-100,000	封書・葉書郵送料
会議費	15,000	15,000	0	会議用茶菓子
渉外費	10,000	10,000	0	渉外費
旅費	10,000	10,000	0	役員旅費
事業費	750,000	800,000	-50,000	生徒校外活動補助 （農業クラブ・部活動等） 農芸祭 椎茸原木・菌購入 会報発行 研修事業
生徒福祉費	600,000	700,000	-100,000	生徒募集対策費 （ポスター作成・横断幕製作等）
慶弔費	25,000	50,000	-25,000	香資料・弔電・祝電
振込手数料	5,000	7,000	-2,000	寄附金振込手数料
特別積立金	100,000	200,000	-100,000	
予備費	10,100	18,500	-8,400	
合計	1,575,100	1,960,500	-385,400	

平成31年度 特別積立金会計予算

単位（円）

科目	繰越額	本年度積立額	積立金合計額	備 考
特別積立金	1,158,757	100,000	1,258,757	

平成31年度 卒業生進路決定 **進路状況**

令和2年1月31日現在

I. 進路状況

企業名・学校名については一部略
()内は内定・合格者実数

学 科	就 職	進 学	その他	合 計
農産バイオ科	25 (25)	38 (38)	0 (0)	64 (64)
(男子)	18 (18)	24 (24)	0 (0)	42 (42)
(女子)	7 (7)	14 (14)	0 (0)	21 (21)
環境緑地科	20 (20)	5 (5)	1 (0)	26 (25)
(男子)	20 (20)	5 (5)	1 (0)	26 (25)
(女子)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	45 (45)	42 (42)	1 (0)	89 (89)

II. 就職内定状況

内定者実数 *下記企業名は順不同

学 科	農・建設・造園	製 造	運輸・通信	卸・小売	サービス	福 祉	公務員 他	合 計
農産バイオ科	1	11	0	6	3	2	1	24
環境緑地科	11	5	1	0	1	0	1	19
合 計	12	16	1	6	4	2	2	43

- 【農・建設・造園】 西日本高速道路メンテナンス関西株式会社《4名》、水谷建設株式会社、西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社、山崎建設株式会社大阪支社、池田建設株式会社、株式会社高塚工務店、花豊造園株式会社、植弘池内造園、株式会社中山造園
- 【製 造】 株式会社虎屋、山崎製パン株式会社、ユニチカ株式会社宇治工場、株式会社湖池屋、株式会社創味食品、日本アイ・ティ・エフ株式会社《2名》、亀岡電子株式会社、株式会社宮木電機製作所、開明伸銅株式会社、広田工業株式会社、渡辺製菓株式会社、日本ジフィー食品株式会社宇治工場、佐川印刷株式会社、ケイコン株式会社、株式会社半兵衛麩
- 【運輸・通信】 阪急電鉄株式会社
- 【卸・小 売】 京都食肉市場株式会社《2名》、株式会社志津屋、株式会社いずみ、株式会社花市商店、山文商事株式会社
- 【サ ー ビ ス】 株式会社全日警大阪支社《2名》、株式会社フクナガ
- 【福 祉】 社会福祉法人アイリス福祉会、メディカル・ケア・サービス関西株式会社
- 【公務員 他】 南丹市職員(土木)、自衛隊

III. 進学合格状況

延べ人数 *下記学校名は順不同

学 科	大 学	短期大学	農業大学校	専修各種学校	合 計
農産バイオ科	18	0	4	16	38
環境緑地科	5	0	0	0	5
合 計	23	0	4	16	43

- 【大 学】 龍谷大学(農学部《4名》)、京都先端科学大学(バイオ環境学部)(健康医療学部)、花園大学(社会福祉学部《2名》)、酪農学園大学(農食環境学群《2名》)、南九州大学(環境園芸学部《2名》)、京都文教大学(総合社会学部)、京都精華大学(人文学部)、明治国際医療大学(健康保健医療学部)、日本大学(生物資源科学部)、東京農業大学(生物生産学部)、摂南大学(農学部)、帝京科学大学(生命環境学部)、中部大学(応用生物学部)、大阪学院大学(経済学部)、長浜バイオ大学(バイオサイエンス学部)、福井工業大学(工学部)、
- 【農業大学校】 京都府立農業大学校《2名》、鳥取県立農業大学校、兵庫県立農業大学校
- 【専修各種学校】 京都調理師専門学校《3名》、京都コンピュータ学院《2名》、京都医健専門学校、Y I C京都ペット専門学校総合《2名》、大阪ビジネスカレッジ専門学校、大和学園、アニマル・ベジテーションカレッジ、日本医療技術学院専門学校、放送技術学院専門学校、大阪ハイテクノロジー専門学校、京都外国語専門学校、京都府立城陽障害者高等技術専門学校

求人のお願

近年、高校生の就職に関しては「売り手市場」の状況が続き、本校の求人状況も順調に推移しています。しかし、農芸で学んだことを活かして働くことのできる企業・事業所ばかりだとはいりません。望ましい求人情報がありましたら、進路指導部まで御提供ください。
農芸高校 TEL : 0771 (65) 0013

ホームページの活用と
会報誌の送付について

農芸高校のホームページに教育後援会のコーナーを設け、活動内容を掲載しております。逐次更新をしておりますので、時々チェックしてください。なお、会報誌の送付は、卒業後10年までとさせていただきますようお願い申し上げます。

農芸高校が文部科学大臣表彰を受賞

この度、農芸高校が「令和元年度キャリア教育文部科学大臣表彰」を受賞しました。この表彰はキャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められる学校等を表彰するもので、1月15日国立オリンピック記念青少年総合センターで表彰式が行われました。農芸高校では農業の専門高校として特色ある教育活動を展開しながら、その教育内容を生かして、地域や外部機関との連携を積極的に進め、キャリア教育を深化させる多種多様な取組を推進しています。

